

アダムの物語——聞き書き

これは人類の始祖アダムの話を聞き取ってそれをまとめたものです。聞き違いや理解の至らないところがあるかと思いますが、古い話なのでおゆるしく下さい。なお聖書は＜聖書協会共同訳（2018）＞を主として用いています。

はじめに

わたしはアダムです。最初に神によって造られた人間です。わたしのことは旧約聖書の「創世記」という書物の初めのほうに記されています。それによれば、わたしの地上の生涯は 930 年（創世記 5:5）とのことです。現在の人類からすればずいぶん長生きをしたこととなりますが、当時の寿命はそれくらいで、わたしの 9 代後のノアは 950 年生きました。その後寿命は次第に短くなって、ノアから 10 代後のアブラハムからは 200 年に達しなくなりました。

それはともかく、わたしと妻エバの子孫、言い換えればわたしたちの子どもたちが今もしばしば争い、血を流していることを、大変辛く感じています。後で述べますが、わたしたちの直接の子どもたちが争って血を流すという経験をしただけに、そのことはいっそう耐えがたく悲しいことです。地上に平和が実現することを願ってやみません。

これからわたしの記憶と創世記の記事を手がかりに、わたしの生涯の主な出来事をお話しします。

神のかたちに

わたしが人間として存在するようになったのは、まったく神さまの意志と行為によることです。神さまはご自分のかたちに、ご自分にかたどってわたしという人間を造られました（創世記 1:27）。「神のかたちに」「神にかたどって」というのは、畏れ多いことですが、神さまに何らか似たところのあるものとして造られた、ということのようです。神さまは相手を愛し、相手に呼びかけ、言葉と心を通わせることを願われる方ですから、わたしもまた——つまりは全人類がですが——相手を愛し、相手に呼びかけ、言葉と心を通わせるものとして造られたのです。もちろん、わたしにとっての最初で最大の、というより比較

を絶してですが、わたしの相手とは、神さまです。神さまはわたしを、神さまに相対する者として、神さまの相手として造られたのでした。

わたしは元は土の塵ですが、神さまの息吹を受けて造られ、神さまに完全に肯定され祝福されていましたから、幸せで、何の不満も苦しみもありませんでした。しかし神さまは、わたしには別の存在が必要であるとお考えになり、わたしの想像もしなかったことを実行されました。

与えられた相手

わたしは深い眠りに落とされました（創世記 2:21）。わたしが眠っているうちに神さまはご計画を実行なさいました。わたしが目を覚ましたとき、神さまはわたしの前にこれまで見たことのない存在を連れてこられました（2:22）。わたしは喜びと感動で我を忘れましました。他の動植物とはまったく違って、わたしとそっくりの存在です。そっくりでありながらどこか違います。でもそっくりです。わたしと対等の相手、互いに言葉と心を通わせ合う存在として、わたしは彼女を発見しました。神さまは彼女をわたしの妻とし、わたしを彼女の夫とされたのです。

わたしたちが暮らしていたのは「エデンの園」という所でした。美しい場所で、わたしたちは何の危険も恐れも知りませんでした。お互いに助け合うわたしたちの生活は日々が喜びであり、そこを「耕し守る」（2:15）ことがわたしたちのすることでした。

神の戒めを破る

エデンの園にはたくさんのお木があって、神さまはそのどの木からでも実を取って食べることを許されました。ただ一つ「善悪の知識の木」からだけは取って食べることを禁じられていました。「取って食べると必ず死ぬ」と。わたしたちは神さまの愛のもとで自由に生き、この一つの戒めだけを守っていました。

ところがある日のこと、妻は蛇にそそのかされてその「善悪の知識の木」から実を取って食べ、わたしにも勧めたのでわたしはそれを食べました。食べた瞬間、わたしは心に苦いものを感じました。わたしたちは自分が裸であることに気づき、急いでいちじくの葉をつづり合わせて腰に巻きました。

その日、風の吹く頃、わたしは神さまが園を歩まれる音を聞きました。わたしと妻は恐れを感じ、園の木の間に身を隠しました。神さまはわたしを呼ばれました。

「どこにいるのか。」

わたしはやむなく答えて言いました。

「私はあなたの足音を園で耳にしました。わたしは裸なので、怖くなり、身を隠したのです。」 3:10

「裸であることを誰があなたに告げたのか。取って食べてはいけないと命じておいた木から食べたのか。」 3:11

わたしは言いました。

「あなたが私と共にいるようにと与えてくださった妻、その妻が木から取ってくれたので私は食べたのです。」 3:12

わたしは間違っていないです。嘘もついていません。妻が取ってくれたから、妻が勧めたから食べたのです。けれども後からはっきり自覚したのは、わたしの罪です。わたしは神さまに対して自分が戒めを破ったことを言い繕い、責任を妻に負わせて妻を突き放したのです。このことによって、わたしは神さまとの関係を破ったばかりか、妻との関係も破ってしまったのでした。

神さまはわたしたちをエデンの園から追放されました。それからは、わたしたちは苦労して自分の手で食べ物を確保しなければならなくなりました。わたしたちは神さまに見捨てられたと思いました。しかし神さまは、わたしと妻のために、皮の衣を作って着せてくださいました (3:21)。厳しい世界で果たして生きていけるだろうかという恐れがありましたが、神さまがなおわたしたちを愛して守ろうとしていてくださると知り、希望を持ちました。

わたしは妻をエバ（「命」の意味）と名付けました。

息子たちの悲劇

やがて妻エバは身ごもってカインを産みました。エバは「私は主によって男の子を得た」 (4:1) と言いました。新しい命の誕生は主なる神さまによるのです。彼女はさらに弟アベルを産みました。カインは土を耕す者となり、アベルは羊を飼う者となりました。

わたしたちは、兄弟が仲良く過ごすことを願っていたのですが、現実はそうではありませんでした。特に、アベルの供え物は神に受け容れられたのに、カインの供え物には神が目を留められなかったということで、カインが激しく憤っているのを見て、わたしたちは心配しました。しかしそれは心配では済まなかったのです。

カインが弟アベルに手を掛けて殺した。——それを知ったとき、憤りと悲しみとでわたしは胸が張り裂けそうでした。けれども妻の嘆きようはわたしの比ではありませんでした。いずれも自分がお腹を痛めて産んだ息子たちなのです。

カインは神さまから問いただされました。「あなたの弟アベルはどこにいるのか。」

カインは初めは「知りません。私は弟の番人でしょうか」(4:9) としらばくれていましたが、さらに神さまから追及されて、ついに自分の罪を感じて、神に「過ちは大きくて負いきれません」と呻きました。彼はアベルを殺した報復として、自分は誰かに殺されるに違いない、と恐怖にかられていました。わたしたちはアベルを失ったばかりか、カインまで失うのではないかと恐れしました。わたしたち自身も生きる望みを失いかけていました。けれどもやがて知りました。神さまはこのカインを守るために、彼に「しるし」をつけられたのです(4:15)。カインは地上をさすらう者となり、その後の消息はわかりませんが、神さまの守りがあることを信じています。

その後のこと

やがてエバは 3 番目の男の子を産み、セト(「くださった」の意味)と名付けてこう言いました。

「カインがアベルを殺したので、神がその代わりに一人の子を私に授けられた。」 4:25

セトはやがて成人して結婚し、男の子が生まれました。セトはその子をエノシュ(「人」の意味)と名付けました。わたしたちにとっては孫にあたります。この頃、人々は主の名を呼び始めました(4:26)。そうです。わたしたち人間の救いは、主なる神にしかありません。主の名を呼ぶとき、主は必ず答えてくださるはずですよ。

わたしの生涯を振り返るとき、神によって造られ祝福を与えられた初めの頃のこの上ない幸いを思い起こします。けれども、あのエデンの園で神の戒めを破ったこと、さらにそ

の罪を妻に着せようとしたことを思い出すと、今も悔恨に心が痛みます。また息子たちのことでは、人としてこれ以上の不幸はないという経験をしました。しかし、もう生きてはいけないと思うところで、神さまは助けを与えてくださいました。

わたしの子孫は、不幸にも、わたしの破れと罪を引き継いでいるかのようです。わたしアダムは、人類の不幸な代表者なのでしょうか。

しかしたとえそうであったとしても、神さまは人類を放置されるはずはありません。そのことは後の誰かが、はっきりと告げてくれる信じています。

全人類の救い主・イエス・キリスト——聞き書き者の後書き

新約聖書・ローマの信徒への手紙で、パウロはこう言っています。

「そこで、一人の過ちによってすべての人が罪に定められたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。律法が入り込んで来たのは、過ちが増し加わるためでした。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ち溢れました。」 5:18-20

「一人の過ち」とは、アダムの過ちのことです。わたしもまたアダムの子孫として、罪の中に呻く者です。しかしわたしたちにはアダムに代わる人類の代表者・イエス・キリストがおられます。この方が罪と滅びの連鎖を断ち切り、全人類に救いをもたらしてくださいます。

アダムに代わる一人の人、イエス・キリストによって、すべての破れ、罪、滅びは引き受けられ、引き取られました。この方、イエス・キリストの十字架と復活によって、癒やしと赦しと希望と永遠の命が、完全にわたしたちのものとなったのです。

わたしたちはこの方の声を聞きます。

「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。」 エレミヤ 31:3 (聖書協会口語訳)

(井田 泉)